



Data

監督：奥田庸介

出演：大西信満／遠藤祐美／渋谷清彦／上原実矩／大和田獏／毎熊克哉／ヨウジヤマダ

.....

.....

.....

.....

.....

■■■ショートコメント■■■

◆今年3月5日の「おおさかシネマフェスティバル2017」で、事前情報がほとんどないまま観た『ケンとカズ』（16年）は、想像以上の面白さだった。それに対して、事前情報ではそれとよく似たテイストで、それ以上の面白さがあるように思えた本作は・・・？

◆本作で2人の主人公となる森永一真（大西信満）とひろし（渋谷清彦）は、『ケンとカズ』の2人の主人公ケンとカズより少し年上だが、2人ともプレスシートで「馬鹿で、無様で、愛おしい。」と形容されているとおりの男。そんな男2人が繰り広げる「大いなる勘違いからはじまる危ない純愛映画。」はメチャ面白いだろう。私はそう期待したが、さて・・・？

◆若松孝二監督の『キャタピラー』（10年）で大西信満はすごい演技を見せたが、同作で共演した寺島しのぶは2010年ベルリン国際映画賞で銀熊賞（主演女優賞）を受賞した（『シネマルーム25』215頁）。また、大西信満が真木よう子と共演した、大森立嗣監督の『さよなら溪谷』（13年）（『シネマルーム31』24頁参照）は、第35回モスクワ国際映画祭審査員特別賞を受賞した。

本作では、その大西信満扮する一真が一途に愛する女・優子役を遠藤祐美が演じている。また、その妹でひろしの恋人となっている女子高生・幸子を上原実矩が演じているが、さてこの2人の女優の出来は・・・？この2人は本作で初めて見る女優なので大いに期待したが、さて・・・？

他方、ひろしが仕えるヤクザの親分・遠山を演じるのは、大和田獏。ヤクザなんて所詮ケツタイな奴が多いのは、ビートたけしが演じるヤクザを考えれば明らかだが、さて本作で大和田獏演じる遠山のキャラは・・・？大和田獏の演技は・・・？

◆山田洋次監督の『男はつらいよ』シリーズでは、渥美清演じるフーテンの寅さんのバカさ（加減）が最大のポイント。寅さんはたしかに馬鹿で愛おしいが、決して無様ではない。

また、原則的に毎回マドンナ役を演じる女優を変えて作られる同作は、いつも大いなる勘違いからはじまる純愛映画だが、決して危なくはない。しかし、本作で2人の主人公となる一真とひろしのキャラは無様すぎる。また、恋愛面における2人の主人公の大いなる勘違いは危なすぎる。そのため、『男はつらいよ』のようにクスクス笑ながら観ることができない面が強すぎるから、いささか・・・？もともと、あなたがそんな男の映画が好きなら、本作はきつと・・・。

2017（平成29）年6月27日記